

# 日本知的財産協会 知財シンポジウム

## パネルディスカッション 三位一体の知財経営の実現

2008年1月18日

アーサー・D・リトル(ジャパン)株式会社

原田裕介

harada.yusuke@adlittle.com

はじめに：本日はどんな議論をするのか

各社取り組み状況と問題意識

まとめ：本日の議論を振り返って

本日はどんな議論をするのか: What

当たり前前に使用される「三位一体」という言葉。だが実態は、多くの企業が「悩み」に直面。また、三位一体のあり方(知財戦略)は企業によって異なり、「解」は一律では無い。

テーマ

三位一体の知財経営を、どう実現するか？

悩み  
(の例)

目指す姿

何をもって三位一体というのか？

三位一体のゴールイメージは何か

何のことか？三位一体のイメージが湧かない

具体的アクションと  
押さえ所

何から始めたらいいか、わからない

色々手をうっているが、なかなかうまくいかない

何かおさえるべきポイントがあるのではないか？

経営視点の目的理解

そもそも、何のためにやるのか

なぜ三位一体を目指すべきなのか

どんなベネフィットがあるのか？

前提

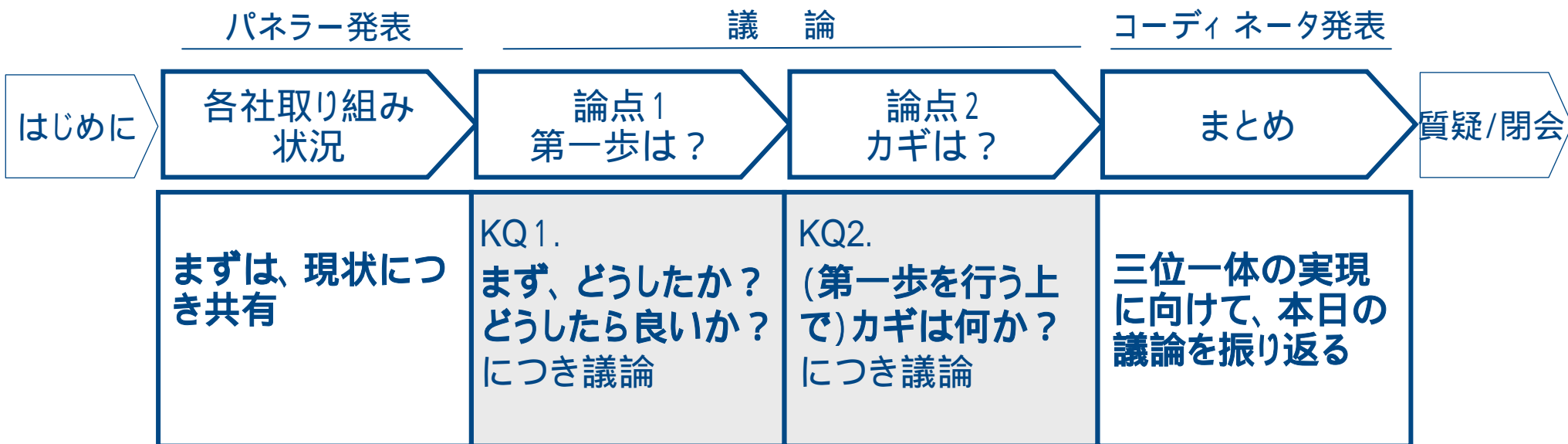
企業間の違いの存在

本パネルディスカッションでは、

「具体的事例」を起点とし、「各社の違い」を踏まえつつ、「共通な押さえ所」を探る。

## 本日はどんな議論をするのか: How

まずは、パネラーが現状につき発表し、その上で、二つのKQにてテーマを深掘りする



言葉先行になっている感のある「三位一体(に対する取り組み)」につき、皆様が、何らかのヒントとなるものを、一つでも持って帰っていただければ嬉しく思います。

はじめに：本日はどんな議論をするのか

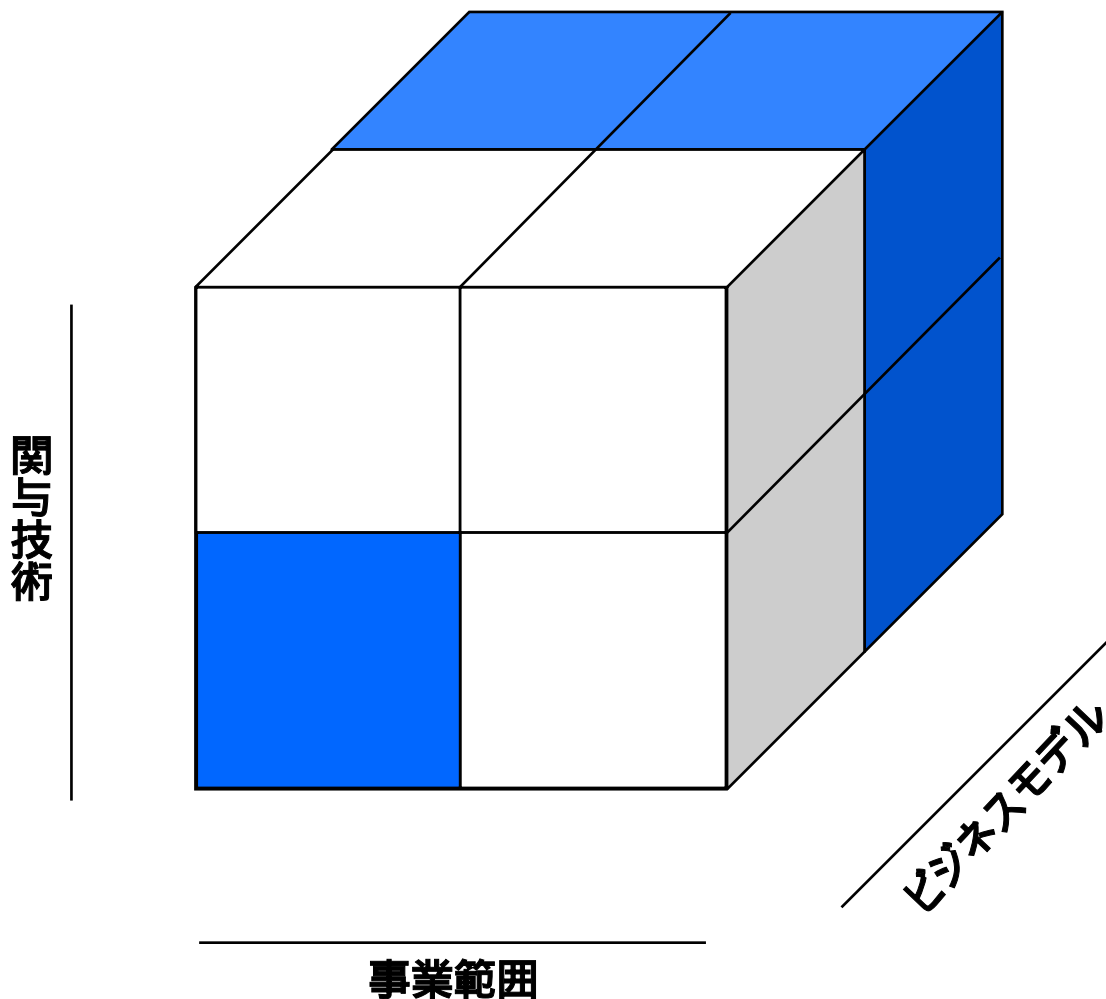
各社取り組み状況と問題意識

まとめ：本日の議論を振り返って

# 各社の取り組み状況は様々 (各社の違い)



# 知財マネジメントCUBE



置かれている状況で、取り組みの違いがある(取り組むべき対象が異なる)模様

はじめに：本日はどんな議論をするのか

各社取り組み状況と問題意識

まとめ：本日の議論を振り返って



## 本日の議論を振り返って (共通な押さえ所)

メリハリ

(仕組みの裏にある) 三つのカギ

事業マインドの醸成と協業体制

## おわりに

三位一体の取り組みは「経営イノベーション」である。

新たなマネジメント構造への模索  
(パラダイム変化への対応)

目に見えない(模倣困難な)  
競争基盤の確立

パネルディスカッションへのご清聴ありがとうございました。

原田裕介

連絡先

03-3436-8931 (直通)

harada.yusuke@adlittle.com